

ほとんど逢えない人

小河涼子

大阪府・三七・公務員

何度も何度も夢に見ます……

いえ、夢ばかりではない、現実にも。今も側にいて、笑いかけてくれるようで。私はいつもあなたに語りかけ、そしてあなたの声を聞きます。まなざしを感じます。あなたは今も私の側にいる。

初めからあなたは「ほとんど逢えない人」でした。私とあなたのスケジュールは、すれ違いばかり。電話の声を聞くことも出来ずにひと月過ぎすこともしばしば。だから私は、いつの間にか、逢えないあなたの声を、気配を、身近に感じて生きる術を、手に入れてしまいました。困った時、とまどう時、今もあなたが側にいて、優しく手を差し伸べてくれる……

そうして結局、一人で切り抜けていく術を、いつの間にか手に入れていたのです。

でも、全てはあなたが、本当のあなたが、すぐにも側に来てくれると思えばこそこのこ

と。いくら心の内の会話だからといっても、それで満たされるなら、あなたがいなくてもいい、ということに、なるわけがありません。そんなことなど、わかってくれていたはずなのに。

一人で平気な女だと、あなたには見えましたが。そうですね、私は一人、今も普通に職場に通い、一人暮らしにしては几帳面過ぎる程、規則的な毎日を送っています。たまの休みは掃除に余念がなく、どこに出歩くでも、遊びに行くでもなく、淡々とした毎日を過しています。

安心しましたか？　そうですね、あなたにとってその程度の女でも、私の毎日は、今もあなたに満たされています。風が吹けば、あなたを思い、花が咲けば、あなたに語り、おそらくこれから幾年月も、この心の朽ち果てるまで……